

I・1・1 地図の発達・・・(教) pp.330- (地) p.144

a 地図の歴史←世界観・地球観に影響される・・・円盤説・球体説など

古代

(バビロニア) の地図・・・円盤説

・・・前700-500 バビロンを中心に

ティグリス・ユーフラテス、ペルシア湾

ギリシア

・・・数学者ピタゴラス・哲学者アリストテレス 球体説

(エラトステネス) ・・・子午線の長さを測定、経緯線入り地図を作成

ローマ

(プトレマイオス) (トレミー) の地図、経緯線入り地図 (扇型)

中世

イスラム イドリーシーの地図・・・上は南、球体説

イブン・バトゥータ『三大陸周遊記』

西洋 (TO) マップ 中心 (エルサレム) ・・・円盤説に後退

中世末 (ポルトラノ) 海図・・・方位線入り、中国から羅針盤

が伝わる

近世・・・球体」説の復活←科学の発達

(トスカネリ) の地図・・・西に行くと黄金の国ジパング (マルコ ・ポーロ)

→ (コロンブス) に影響しアメリカ大陸の「発見」

→マルチン・ベハイムの地球儀

(メルカトル) ・・・正角円筒図法 正角 直線は等角コースで航海用に

ただし最短コースでない

日本

(行基) 図・・・日本最古とされる 奈良時代の僧 主観的地図

(伊能忠敬) ・・・『大日本沿海輿地全図』 沿岸部を実測

b 現代の地図

三角 測量

スネリウス・・・1591-1626 スネルとも、オランダの数学者、三角測量を
考案

ピカール・・・パリ付近の測量

カッシーニ・・・フランスを測量

→今は (航空) 写真測量も

衛星の利用

(リモートセンシング) (遠隔探査、可視光線や赤外線による)

G N S S 全地球衛星測位システム・・

(G P S) (米・全地球測位システム) や

(みちびき) (日本・誤差 6 cmを目指す)

コンピュータの利用

(G I S) (地理情報システム)・・コンピュータの地図上でデータを
表示し、分析・判断に役立てる→研究・商業利用